

ちゅうぶ の 環

2011 Summer
vol. 14



指定植物図鑑



キヌガサソウ

(中部山岳国立公園)

東北地方～関東地方北部、中部地方(日本海側)に分布するユリ科の多年草。日本固有種。輪生した葉の直径は大きいものでは40cmを超え、非常に存在感があります。大きな葉を衣笠(昔、高貴な婦人が使用した絹製の柄の長い傘)に見立てたことが、その名前の由来になっています。

CONTENTS

- 2/3 特集1 生物多様性主流化特集
- 4 特集2 中部地方のパークボランティア活動
- 5 ローカルチャレンジ in ちゅうぶ 松本市
- 5 中部環境パートナーシップオフィス EPO中部
- 6 パートナーシップがつくる地域の未来 流域環境保全ネットワーク・仕事工房ポポロ
- 7 アクティブレジャーレポート・新所長ご挨拶
- 8 イベントカレンダー 中部地方環境事務所からのお知らせ



中部地方環境事務所

戦略的地域づくりビジョンの実践のための調査

平成17年10月に環境省の中部地方の出先機関として設置された「中部地方環境事務所」では、国立公園をはじめとする保護地域を管理していますが、保護地域以外のエリアの自然環境の保護と利用のあり方については、必ずしも明確になっていませんでした。

このため、当事務所では平成21年度事業の一環として、まず「伊勢・三河湾流域」を対象に「場と輪をつくる」「行動する」「仕組みをつくる」を3本柱とする「生物多様性を支える市民・地域による戦略的地域づくりビジョン」を作成しました。

(http://chubu.env.go.jp/to_2010/0518b.html)

このビジョンを踏まえ、平成22年度はビジョンを実践するための取り組みを行いました。取り組みの内容は、伊勢・三河湾流域における下流域の民間団体が主に上流域の民間団体に直接ヒアリングを行い、互いの活動の光(喜び)や影(苦悩)を共有し、ネットワークを構築しようとするものです。

この取り組み自体は「伊勢・三河湾保全・再生調査」という名称で、平成20年度から継続していますが、昨年10月に開催された生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)で採択された同条約の新戦略計画(愛知目標)を推進していくための意味も大いにあります。(図1、<http://chubu.env.go.jp/nature/mat/eco-map/index.html>)

生物多様性保全に取り組む活動団体のフィールドマップ
Field map of groups for biodiversity in Ise Mikawa Bay Watershed

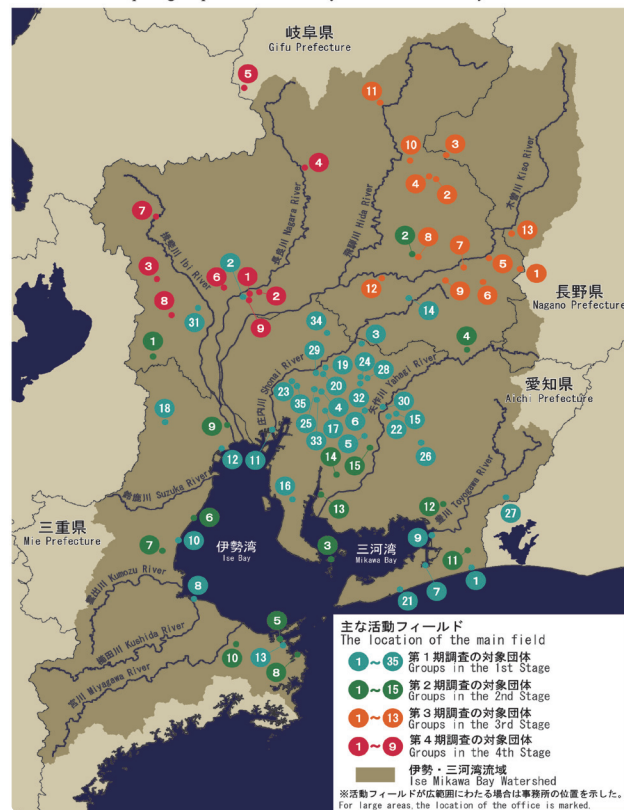


図1：生物多様性保全に取り組む活動団体のフィールドマップ

調査は、これまで対象に含まれていなかった主に揖斐・長良川上流域で活動する計9団体にヒアリングを行いました。直接お話を伺うことで、民間団体同士の良好な関係が構築されたほか、地域の生物多様性を持続的に保全するためには、地域文化の継承、有機農業や適正な林業といった地域資源の適正な利用が重要であることなどが明らかになりました。

調査の途中でしたが、COP10の際に開催された「生物多様性交流フェア」において、本取り組みのパネル展示、パンフレットの配布、スタッフによる説明を通じ、全国・世界に情報を発信しました。また、ヒアリングを踏まえた意見交換会の場である「生物多様性流域対話」を昨年8月(岐阜県美濃市)と本年2月(岐阜市)の2回開催しました。

特に、2回目の「生物多様性流域対話」では、本取り組みを今後継続して実施すること、流域をコーディネートできるような主体を確立することなどを内容とする「生物多様性流域対話宣言」が満場一致で採択されました。(図2)
(http://chubu.env.go.jp/to_2010/0301b.html)

～豊かな流域を守り育てるために～ 生物多様性流域対話宣言

私たちは、たくさんの生物多様性の恵みを享受することで、日々暮らしを営み、文化や伝統を育んできました。しかし、高度経済成長期以降の急激な経済発展やそれに伴う開発、都市化の進行により、快適で便利な生活ができるようにはなりませんが、森・里・川・海の大切な生物多様性の消失を未だ止めることができません。

2010年10月に愛知県名古屋市内において生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が開催され、COP10で採択された愛知目標などの実現に向けて、グローバルな視点にたち、伊勢・三河湾流域を保全・再生することの重要性が改めて注目されています。

伊勢・三河湾流域の保全・再生を通じ、私たちの未来をよりよいものとするために、流域の市民、民間団体、専門家、行政といったセクターの連携・協働を強固なものにしつつ、次の取組を進めることを宣言します。

- さまざまな団体などに出かけて直接対話する「流域再生調査」を今後も継続します。
- 流域の上流と下流の連携、岐阜・愛知・三重・長野・滋賀などの県域を超えた活動の連携と交流を一層進めます。
- さまざまな活動の成果を発信するとともに、流域の保全・再生に向けた課題を共有するため、各地の現場での開催も含めて、今後も多様な地域や職・世代の参画による「生物多様性流域対話」を継続します。
- 流域をコーディネートできるような主体を確立していきます。

2011年2月20日 生物多様性流域対話参加者一同

図2：生物多様性流域対話宣言

生物多様性の持続可能な利用に係る 伝統的知恵に関する調査

前頁の調査と同様、ビジョンを実践するため、三河湾流域をモデル地域として、『聞き書き』という手法を用い調査を行いました。ねらいは、流域で生活する人々が伝統的にもちに持っている知恵の中にある生物多様性の持続可能な利用法を炙り出し、今後の地域づくりに生かすことです。

聞き書きの対象者は全部で9名。森、川、里、海との関わりの観点から、豊田市大野瀬町梨野地区、同市古川(ふっそ)地区、豊橋市前芝地区の3箇所を対象としました。ここでは、森、里との関係を調べた梨野地区について報告します。

調査を通じ、梨野地区では周辺に広がる山を屋敷からの距離や自然環境特性に応じ、薪炭材・木材の採取地、耕作のための肥料の採取地などとして活用していることが分かりました。また、田畑に引く水は、離れた谷川から個人所有地をできるだけ通らないよう、周辺の環境を読み取りながら引かれていることが分かりました。さらに、屋敷の前には田畑があり、背後の山林は山菜・薬草の採取地や桑畑として利用されるなど、近代の奥三河地域で見られるモザイク的で多様な土地利用が行われていることが確認できました。

このように、梨野地区では、自然環境を読み、地形に応じてきめ細やかに土地を利用する知恵が継承されていることが分かりました。(図1)

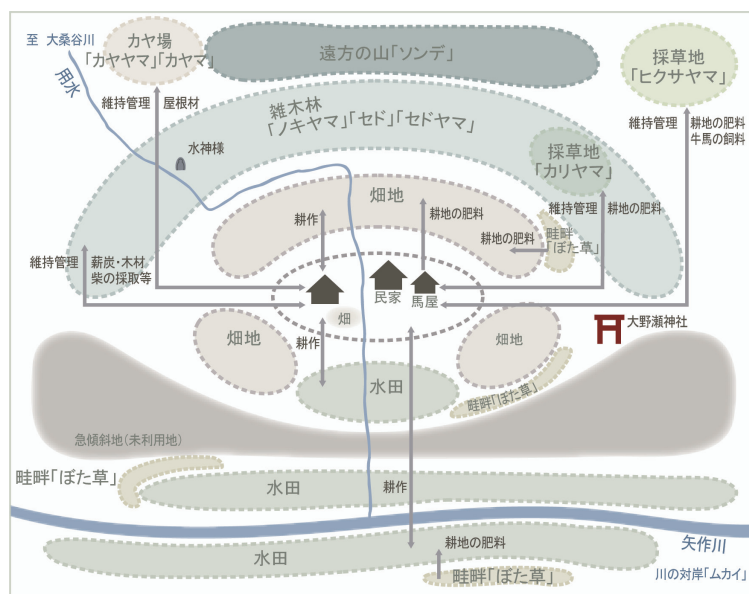


図1：梨野地区の持続可能な資源利用の概念図



写真1：路傍にある「おしゃぐり様」

次に信仰について、主に農林業を生業としている地域では、農作物の豊穰を祈ること、災害などが最小限になるよう願うことなど、自然の恵みと脅威に対する気持ちを「祈る」行為を通じて継承しています。梨野地区でも、地区の中央にある大野瀬神社は町全体の神社として人々の信仰の対象とされ、境内にあるイチョウの巨木は、里の暮らしを見守ってきた神木として捉えられていることが分かりました。

また、路傍にはお地蔵様や「おしゃぐり様」(写真1)に代表される石造物など、八百万の神が祀られ、地区の人びとの安寧な生活や子どもの健やかな成長、豊穰・豊作、地の恵みや水の恵みへの祈りの対象となっていることが分かりました。

以上のように梨野地区において、土地利用や信仰を通じ地域の生物多様性が持続的に利用されており、地域住民の伝統的な知恵は、今後、私たちが自然と共生する社会を形づくる上で有用であることが分かりました。今回は、三河湾流域を対象としましたが、中部地域全体に広げて調べることは意味のあることだと考えます。

最後に、本調査の実施に当たり、特定非営利活動法人 山里文化研究所の代表理事清藤奈津子様到大変お世話になりました。改めてお礼申し上げます。

国立公園で、自然観察会等の解説活動や美化清掃、利用施設の簡単な維持修理などの各種活動について、自発的に協力して頂ける方々をパークボランティアとして登録しています。

今回、白山国立公園と伊勢志摩国立公園のパークボランティアの活動を紹介します。

白山国立公園



植物の生態の紹介

白山国立公園パークボランティアは、この3月に7名の新しい仲間が増え、現在13名で富山、石川、福井、岐阜の4県に跨る白山国立公園の全域を活動フィールドにして、主に自然解説や巡視活動を行っています。活動は特に自然解説を中心に行之、各地の白山国立公園が持つ魅力の紹介に取り組んでいます。

主に、白山国立公園パークボランティアが活動拠点としている場所は石川県白山市にある根倉谷園地です。この場所は、昔から地元の方が稲作やクリの植樹、炭焼きなどの利用をしてきた場所であり、白山国立公園の中でも人が自然の恵みを生かして生活してきた足跡を感じることができる場所です。その場所で、実際に植物に触れて種子が飛び仕組みを学んだり、炭焼き窯跡を観察したり、クリの木の上にあるクマ棚などの生き物の痕跡などを発見し、五感を使って昔の人の生活の知恵や自然の恵み、野生生物の息吹を感じてもらっています。パークボランティアはそれぞれの持つ個性や得意分野をもとに活動を実施しており、豊かな感性やこれまでの経験に基づいた自然解説は参加者からも好評です。他にも、「白山」ならではの豊富な雪の恵みを生かし、スノーシューを用いて冬芽の観察や雪の深さの調査をする観察会も行っています。



冬芽の観察

今年は、新規メンバーの増加をきっかけにして、新たに登山の利用が集中する夏場に清掃活動を行ったり、巡視活動と合わせて今後の観察会の資源探しを行うなど、活動の範囲を広げていく予定です。

伊勢志摩国立公園



自然観察会の様子

伊勢志摩国立公園のパークボランティア活動は、平成11年から始まり今年で12年目に入りました。志摩市にある横山ビジターセンターを拠点として、伊勢志摩国立公園全域をフィールドに様々な活躍いただいています。現在、45名(平成23年6月現在)の登録があり、地元の方が中心ですが、公園の区域外に住む方も多くいらっしゃいます。

活動内容には、大きく分けて①利用者への自然解説・案内、②公園の保護管理の2つあります。具体的には、①が自然観察会や横山展望台でのガイドの様子



横山展望台でのガイドの様子

横山展望台でのガイドの実施、②が公園内の美化清掃、施設の簡単な補修、野生動植物の保護管理などになります。中でも、①の活動に力を入れており、自然観察会は年間20回以上、横山展望台でのガイド活動は月1回実施しています。定住人口の多い伊勢志摩国立公園では、公園区域外からの利用者へはもちろん、地元住民に対して適切な利用方法や守るべき自然があることを伝えることも重要になってきます。そのためにパークボランティアの存在は欠かせません。

これらの活動は、横山ビジターセンターのHP・館内展示、アクティブレジャー日記等を通して、公園利用者や地元住民へ情報発信しています。

また、新規登録を希望する声を多くいただいたことから、5月29日に養成研修会を行い、10名の方がパークボランティアに加わりました。新たなメンバーを加え、今後さらに充実した活動を行っていく予定です。

松本市(長野県)

車優先社会からの転換を目指して

モータリゼーションの進展により、車に依存した生活スタイルが一般的となり、松本市においても「車優先の街づくり」が進められてきました。車は、便利な反面、排気ガス等による公害や公共交通利用者の減少等の社会問題も顕在化させており、従来の枠組みを越えた新たな発想による取り組みが必要です。ここで、現在松本市で実施している施策の一部を紹介します。

1 新しいエコ通勤

職員の率先行動として、原則マイカー通勤を禁止する「新しいエコ通勤」を昨年の10月から試行しています。今後は、民間企業への普及拡大を目指します。

2 バスDAYまつもの実施

渋滞の緩和とバス利用に向けた意識啓発等に繋げるため、大型イベント開催日に、市内のすべての路線バスの運賃を1乗車100円(小学生以下は無料)とする、「バスDAYまつもの」を実施しています。

3 松本カーフリーデーの実施

民間企業等38団体で構成する「松本市ノーマイカーデー推進市民会議」では、毎年9月に中心市街地において、車を一日使わない日を創出する「松本カーフリーデー」の社会実験に取り組んでいます。

4 次世代交通政策の研究

20年先、30年先を見据え、車を優先した社会から「歩く」ことを基本とした生活スタイルへの転換を図り、総合的な視点から持続可能なまちづくりを推進するため、「松本市次世代交通政策基本方針」の策定を進めています。

本市では、「健康寿命延伸都市・松本」を将来の都市像として定め、だれもが健康でいきいきと暮らせるまちづくりを目指しています。その実現に向けてもこうした取り組みを一層進めていく予定です。

松本市市民環境部環境政策課：電話：0263-34-3268



松本カーフリーデー2007



次世代交通を考える市民フォーラム

EPO中部

EPOはどんなふうにご利用できるの?

EPO中部は、2005年9月にオープンした中部7県の環境パートナーシップを促進する拠点です。では実際に何をしているのか、どのようなプロジェクトをしているのか、多くの人に質問されます。そこで、今回はEPOの利用方法をほんの少しお届けします。

ここ数年多くいただくお問い合わせは、

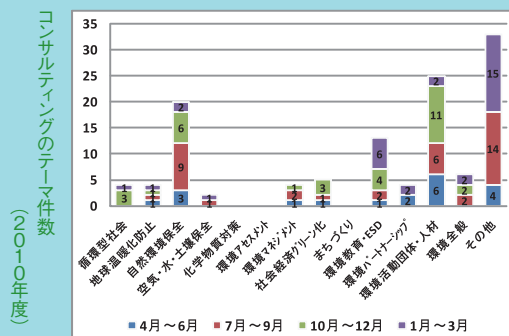
*地域の環境活動に寄付をしたいので、団体を紹介してほしい(企業)

*CSR事業を検討しているが、どんなNPOとどんな協働ができるかアイデアはないだろうか(企業)

*政策形成過程での市民やNPOの参加を促したいがどう進めればよいだろうか(行政)

*協働事業を展開したいが、企業や行政のどの窓口にどのように相談に行けばいいのだろうか(NPO)

などです。EPOでは、こうした問い合わせに対して、NPO、企業、行政などが一緒に事業を進めたい人(組織)、を紹介し、どのように一緒に展開するかなどアドバイスをしています。



コンサルティンクの様子

つまり、「つなぐ」役割です。そして、価値ある「つなぎ」にするために、多様な人材、事業の情報を蓄積し、その情報を地域の課題解決やニーズに対応するためにどう使うか、組み合わせるか、がEPOのスキルです。EPOスタッフの主な重要業務は、情報収集、いろいろな人や現場を「知る」こと、そして得た情報を使える情報にすること、です。相談にいらした方に、検討中の事業がうまく実現できるよう、適切な情報提供や協働の方法などアドバイスに注力しています。皆さんの「こんなことできないだろうか」に真摯に向き合い、応えられるよう、最新の情報収集やネットワークの拡大を試みています。

たくさんの人や組織に「EPOに相談してみよう!」と言っていたらいいな日々奮闘! 具体的な事業についてはHPをご覧ください。

<http://www.epo-chubu.jp>



NPO法人流域環境保全ネットワーク(流域ネット)の取り組みについて

流域ネットは、淡水魚類の関わる流域環境の保全を目的に、主に若手の淡水魚類の生態や分類の研究者を中心に会員が集まりました。現在、地元の住民や企業、および河川工学や農村工学などの様々な専門分野の研究者と協働で、主に調査研究・普及啓発活動を行っています。

調査研究では、環境省中部地方環境事務所から委託を受けて、国内希少野生動植物で、天然記念物でもあるコイ科タナゴ亜科の淡水魚であるイタセンバラの濃尾平野における生息状況を調べています。また岐阜県の揖斐川水系の輪中の農業用水路では、メダカやドジョウなどの淡水魚類の分布、成長や繁殖などの生活史の実態を調べています。また、三重県では、ため池にすむ淡水魚類のカワバタモロコやイチモンジタナゴの調査、普及啓発、環境復元活動を行っています。これらの調査で得られた成果は、学会やシンポジウムおよび論文などで積極的に発表しています。

その成果から得られた科学的な根拠に基づいて保全の施策を地域住民や行政に提案しています。さらに、地域住民や行政と協働して環境教育・合意形成・保全・復元活動を進めることにより、文化的な側面からも、地域社会の活性化と健全な自然観の育成を目指しています。

これらの活動を通じて、淡水魚類が関わる流域環境、ひいてはあらゆる自然環境の本質的な保全に寄与できると私たちは信じて活動しています。



濃尾平野におけるイタセンバラの生息状況調査の様子



揖斐川水系の輪中の農業用水路調査の様子

NPO法人仕事工房ポポロ



身近なところでのリサイクルと若者などの就労支援

家庭から発生する生ごみを資源化して地域で循環利用するための事業とアルミ付紙パックの回収事業をニート・ひきこもりなど生き方・働き方・人間関係に悩む若者などと共に実施しました。*

家庭から出る生ごみを資源化するためにピートモスともみ殻くん炭を利用したダンボールコンポスト講座の開催(22回開催182人参加)、ダンボールコンポストでできた堆肥の利用の仕方やダンボールコンポスト以外の堆肥作りの方法を説明する菜園講座(2回開催48人参加)の他、生ごみの地域循環を確立するために利用されていない農地を利用した有機野菜の栽培を行い、様々な野菜を収穫することが出来とても好評でした。



ダンボールコンポストで出来た堆肥を利用した有機野菜の栽培

アルミ付紙パック回収では、BOXを設置し定期的に回収しました(8ヶ月で430.4kg回収)。また、環境イベントでの啓発活動として紙パックを利用した紙すき体験(参加者350人)や回収体験(参加者670人)を行いました。



ダンボールコンポスト講座の開催

この事業の実施により、生ごみの資源化に高い関心が寄せられ、地域循環の出口として野菜栽培にも成果がありました。また、アルミ付紙パック回収では身近な場所へのBOXの設置などの要望があり、啓発活動に成果がありました。今後は若者などの就労支援につながらると共に、リサイクル品や有機野菜栽培などを通じて身近に循環型社会を感じられる取り組みに発展させていけると良いです。

ブログ更新中!「身近なところから環境を考えよう」

<http://blog.goo.ne.jp/poporo2010eco0714>

※ 平成22年度環境省循環型社会地域支援事業に採択



上信越高原国立公園

親しみやすい山岳公園

万座自然保護官事務所アクティブレングジャー 小林 映絵

昭和24年に指定され、群馬・新潟・長野の3県に跨る上信越高原国立公園は、日本の国立公園の中では2番目の大きさを誇ります。

万座自然保護官事務所では、そのうち草津・万座・浅間・谷川地域を受け持っております。草津白根山・四阿山・浅間山や谷川岳などの山岳公園となりますが、道路やロープウェイなどの施設が充実しており、比較的アクセスが良いのが魅力です。そのため公園内では、本格的な登山から気軽な観光を目的とした方、外国の方や小さなお子様を連れだご家族など、目的や国籍、年齢問わず数多くの方と出会うことができます。



弓池と逢ノ峰(弓池周囲は木道で整備され利用しやすくなっている)

山の巡視を行っている際には、休憩中や歩道ですれ違う時に挨拶とともに、ひとことふたこと言葉を交わす機会があります。互いに登山道沿いに見た花情報を交換したり、環境省や国立公園について興味を持っていたり、時にはお話しいただいた方の地元の美味しい食べ物情報などについて教えていただくこともあります。自然には、そのものから得られる楽しさや癒しの他に、それを通して人との交流や触れ合いの場となりうる力があるのだと感じています。



レンゲツツジと湯ノ丸山

これからの時期は、管内のあらゆる地域で高山植物が楽しめます。特にこれからの時期、私がオススメするのは、6月中旬から7月上旬にかけて見頃を迎える湯ノ丸山のレンゲツツジ群落です！国の特別天然記念物にも指定され、約60万株のレンゲツツジが咲き乱れます。それと併せ、湯ノ丸山・烏帽子・角間山への登山をお楽しみ頂くのはいかがでしょうか。湯ノ丸山頂からは眼下に広がる、レンゲツツジ群落が楽しめます。

是非、自然と人に触れ合いに上信越高原国立公園へ足をお運びください！

新所長ご挨拶



中部地方環境事務所長

神田 修二

このたび、4月1日付けで中部地方環境事務所長に就任しました。どうぞよろしくお願いいたします。私にとりまして中部地方は、かつて長野県、三重県、福井県で通算8年間勤務、生活した経験もあり、とりわけ馴染み深い地域です。この地域で、また新たな立場で仕事をさせていただくことを楽しみにしております。

昨年は、愛知県名古屋で生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が開催されました。会議では各国の利害が対立し難航しながらも、最後の最後に「地球益」「人類益」を守る重要性が共有された結果、新たな世界目標(愛知目標)や名古屋議定書の合意など、地球環境を守るための画期的な成果を上げることができました。この世界人類の共通目標の達成のためには、今度は、我々一人一人が、地域地域が、実践を一つ一つ積み重ねていく必要があります。

今、私たちは、東日本大震災と言う未曾有の大災害を目の当たりにして、地球に生かされている小さな存在であることを思い知らされています。であるからこそ、少なくとも私たちの生活によって、地球環境という人類の生存の基盤を揺るがしてはいけないのだとも思います。自然の大きな力の前には、とすると無力感に苛まれそうにもなりますが、「人事を尽くして天命を待つ」といいます。我が国が復興を果たし、希望に満ちた新たな時代を切り開く上で、私たちが生かされている地球環境を守っていくという不断の努力を今尽くしていくことは、将来の向けた私たち世代の責務だと思います。

私を含め、中部地方環境事務所では、中部地域の皆様と一丸となって、人類共通の目標である地球環境の保全のため、低炭素社会、循環型社会、自然共生社会の実現、それを通じた地域の活性化に全力で取り組んでまいりたいと考えております。今後とも皆様方のご協力をお願い申し上げます。

中部地方環境事務所からのお知らせ

みんなで

節電アクション!

3月11日に発生した東日本大震災の影響により、電力供給に厳しい状況が続いており、特に夏場の電力の需給バランスが非常に厳しくなる恐れがあります。

今回の大震災において、一人一人が支援・協力できることはたくさんあり、そのひとつが「節電」です。

環境省は、節電を広く国民に呼びかけるため、「みんなで節電アクション」キャンペーンを開始しました。家庭で、オフィスで、一人一人、みんなが少しずつ節電の努力をすることが、被災地の復興と安定した電力供給にもつながります。「みんなで節電アクション」へのご協力をよろしくお願いします。

経験したことのない「電力の危機」を、一人一人の力を結集して乗り越えていきましょう!

http://www.env.go.jp/jishin/setsuden_7points/

「移動」を「エコ」に。

smart
move

smart move

～地球にやさしい移動にチャレンジ!～

家庭部門のCO₂排出量は2008年で1990年比で約35%増加しており、日本の目標値である温室効果ガスの排出量25%削減を達成するには、日々の生活での行動の見直しが欠かせません。特に、生活関連部門の約3割が「移動」に伴う排出であり、移動を見直すことは高い削減効果につながります。

そこで、CO₂排出の少ない移動にチャレンジし、エコだけでなく、便利で快適に、しかも健康にもつながるライフスタイルを「smart move」と名づけ、賛同企業・団体と連携しながら、公共交通機関の利用や自転車活用、自動車の利用方法の工夫など、移動にまつわる様々なアクションへの参加を呼びかけています。

詳しくはHPをご参照ください。

<http://www.challenge25.go.jp/smartmove/>

取り組みを
開始!

Let's **SUPER COOLBIZ***

環境省では、東日本大震災を受けた節電の必要性を踏まえ、「クールビズ」期間を延長するとともに、これをさらに進化させた「スーパークールビズ」を推進しており、取り組み開始日である6月1日には、中部地方環境事務所においても、テレビ局や新聞社などからの取材がありました。

「スーパークールビズ」の詳細内容は、以下のURLからご確認ください。

<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=13775>

また、以下のURLからCOOLBIZ賛同団体への登録を行うことにより、「スーパークールビズ」にかかるポスターやバナーなどのツールをご使用いただけます。

<http://www.challenge25.go.jp/practice/coolbiz/coolbiz2011/download.html>

発行：環境省

中部地方環境事務所

〒460-0001

愛知県名古屋市中区三の丸2-5-2

TEL 052-955-2130 FAX 052-951-8889

URL <http://chubu.env.go.jp/>

EVENT CALENDAR

平成23年6月～平成23年8月

✿ 名古屋自然保護官事務所 ☎052-389-2877
<http://chubu.env.go.jp/wildlife/fujimae/index.html>

✿ 夏休み! 干潟観察会 8月3日(水)
✿ 夏休み! 潮だまり観察会 8月13日(土)

✿ 横山ビジターセンター ☎0599-44-0567
<http://www.yokoyama-vc.jp/>

✿ 和具大島の生きもの観察会 6月25日(土)
✿ シュノーケルによる海中観察会 7月30日(土)
✿ 夏の星空観察会 8月4日(木)
✿ タイドプールの生きものワールド 8月27日(土)
✿ あご湾の生きものウォッチング 8月28日(日)

✿ 長野自然環境事務所 ☎026-231-6570
<http://chubu.env.go.jp/nagano/>

✿ 中部山岳・上信越高原アクティブ・レンジャー国立公園写真展
6月13日(月)～6月30日(木)
立山自然保護センター(富山県立山町)
6月17日(金)～7月11日(月)
飯綱高原「オトナリハウス」(長野県長野市)
7月14日(木)～8月17日(水)
谷川岳ロープウェイ「ベースプラザ」(群馬県みなかみ町)
8月20日(土)～9月13日(火)
白馬五竜エスカルプラザ(長野県白馬村)

✿ 笹ヶ峰ビジターセンター ☎0255-86-2441
<http://sasagaminebizitasent.myoko.tv/>

✿ 夏休み自然教室 8月6日(土)～8月14日(日)



表紙の写真

「大正池(中部山岳国立公園)」

撮影：玉手将人
(上高地自然保護官事務所 アクティブレンジャー)

大正池は、大正4年に起きた焼岳の噴火によって上高地の中心を流れる梓川が、せき止められたためにできたと言われています。上高地を象徴する景観の一つであり、天気が良いときには水面に写りこんだ穂高連峰を見ることができます。



中部地方において様々な「環境」の活動に取り組んでいる方々が、この広報誌を通して「環(わ)」のようにつながって、その「環」が広がってほしいという願いを込めて命名しました。

平成23年6月発行

リサイクル適性の表示：紙へリサイクル可
この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準にしたがい、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料[Aランク]のみを用いて作製しています。



中部地方環境事務所は、(財)日本環境協会の承認を得て、エコマークをシンボルマークとして使用しています。



古紙パルプ配合率100%再生紙を使用



P-B10020

この印刷製品は、環境に配慮した素材と工場で製造されています。